

西諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年6月 西諸県農林振興局

（西諸県農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2)
 - 1 6月期子牛郡品評会が開催
 - 2 JAこばやしメロン部会栽培講習会及び意見交換会が開催
 - 3 令和7年度JAみやざきこばやし花卉部会定期総会が開催
 - 4 高原町花卉部会の定例会が開催

- II 主な普及指導活動等の取組み (P3～4)
 - 1 地域プランに基づく普及活動
 - (耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり)
 - 1 セリ前講習会の実施
 - 2 和牛コンソーシアムによる農場巡回の実施
 - (加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)
 - 3 「みずサポ隊」アンケートの開始
 - 4 緑肥を用いた土づくりを調査
 - 5 さといも「石川早生」種いも圃場の生育調査を実施
 - 6 西諸県サツマイモ基腐病等対策会議の開催
 - (先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)
 - 7 JAこばやし促成きゅうり巡回を実施
 - (気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)
 - 8 新品種「ひなた舞」の展示ほ設置
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P5)
 - 1 就農相談会を開催
 - 2 地域農業経営体支援センター担当者会を開催
 - 3 西諸県地区果樹技術員会第2回定例会
 - 4 水稻奨励品種決定現地試験の田植え実施

I 管内農業・農村の主な動き

1 6月期子牛郡品評会が開催

8日に、小林地域家畜市場において、JAみやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和8年6月期子牛郡品評会が開催されました。

13日から15日に開催される6月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た36頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、尨等賞に17頭、弐等賞に11頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の株式会社森田牧場さん出品の「きぼう470」号（父：羅王45）、2席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1530」号（父：白隆鵬）、3席は高原町の石山浩文さん出品の「もみじつる6」号（父：桃白鵬）が受賞されました。受賞牛は、発育良好、輪郭鮮明、前軀から後軀にかけての移行がきれいで、皮膚のゆとりと骨のしまりに優れるとの講評でした。



【優等賞首席「きぼう470」号】

2 JAこばやしメロン部会栽培講習会及び意見交換会が開催

26日に、JAこばやしメロン部会の栽培講習会及び意見交換会が開催されました。

会では、種苗メーカーと肥料メーカーから、品種毎の栽培管理や高温時期に合わせた肥培管理について説明があり、生産者からは、夜の温湿度管理やBS資材の使い方について質問がありました。

栽培講習会は10年ぶりの開催でしたが、生産者からは積極的に学びたいという意欲が伝わり、改めて講習会の必要性を感じました。次の作が9月頃から始まりますので、巡回の中で現場の課題を把握し、指導を行っていきたいと思います。



【講習を受ける生産者】

3 令和7年度JAみやざきこばやし花卉部会定期総会が開催

17日に、生産者3名と家族、市場担当者や市町など関係機関14名が参加して総会が開催され、いずれの議案も承認されました。普及センターは来賓として出席し祝辞を述べました。

定期的な定例会や県外先進地視察で部会員同士の情報共有や技術向上を積極的に図っており、今期も活発な活動が計画されています。

需要の低迷や新たな病害発生等、依然として厳しい状況が続きますが、高品質なキクの生産に向けて、今後も支援いたします。

4 高原町花卉部会の定例会が開催

25日に、高原町管内において定例会とは場巡回が開催され、生産者6名と関係機関4名が参加しました。

ほ場巡回では、生育順調であることが確認でき、また定例会では、JAから市況が報告されました。現在は低迷していますが、7月以降の回復が期待されます。

普及センターからは、高温期の管理ポイントと農薬適正使用や台風対策について説明し、ハウスの高温対策について、試験場での研究事例を知りたいとの意見がありましたので、8月の視察研修を企画することになりました。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

(耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり)

1 セリ前講習会の実施

13日から15日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。

普及センターから「暑熱ストレスの影響と対策」を、振興局から「家畜排せつ物法について」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。

参加者からは、講習会の中で紹介したヒートストレスメーターについて質問があり、暑熱期の飼養管理について見直すきっかけになりました。今後も継続して、基本的技術の紹介を行っていきます。



【講習会を聞く農業者】

2 和牛コンソーシアムによる農場巡回の実施

和牛コンソーシアム（県、JA、NOSAI、畜産協会で構成）は、肉用牛繁殖農家が抱える空胎日数の短縮などの課題に対して、関係機関がそれぞれの強みを活かして連携し、巡回支援を行うものです。

今月は2農場を対象に、自給粗飼料の成分分析や子牛の体測を実施し、課題解決に向けた取り組みが順調に進んでいます。

今後も関係機関の連携を密にし、課題解決に向けた支援を継続してまいります。



【巡回の様子】

(加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)

3 「みずサポ隊」アンケートの開始

5日より、小林市および高原町の畑かん散水器具導入者を対象に、アンケート調査を開始しました。

本調査は、散水器具の保管状況や利活用・未利用の実態を把握することを目的としています。管内の240戸を対象に、6月は40戸近くを実施しており、高齢により設置が難しい、使っているが機材の老朽化が問題であるなどの意見がありました。

なお、7月からはえびの市でも調査を開始する計画であり、年度内の取りまとめを目指して順次進めてまいります。



【アンケート調査状況】

4 緑肥を用いた土づくりを調査

4日に、えびの市で緑肥による土作りに取り組む生産者との計画打合せ、および現地確認を行いました。

緑肥すき込み後は、業務用ほうれんそうの栽培を予定しており、土づくり効果を調査していく予定です。

5 さといも「石川早生」種いも圃場の生育調査を実施

5日、12日に、えびの市でさといも「石川早生」の種いも生産を行う生産者圃場の生育調査を行いました。生育は、全体の揃いもよく、病害虫の発生も見られず順調な状況です。西諸県管内は「石川早生」の種いもの大半を供給する産地です。今後、優良な生産者の種いも生産技術をマニュアル化し、新規の種いも生産者の確保に活かしたいと考えています。

6 西諸県サツマイモ基腐病等対策会議の開催

19日、小林総合庁舎にて「第1回西諸県地区サツマイモ基腐病等対策会議」を開催しました。

会議では、令和7年度の取組の振り返りを行い、基腐病等の定期的な発生状況調査の実施や対策の啓発を中心とした令和8年度の計画案について検討を行うとともに、苗の安定供給に向けた現状と課題の共有を行いました。

また、普及センターからは、サツマイモ基腐病や茎根腐細菌病の対策ポイントを解説し、改めて総合的防除の重要性について関係者間で確認を図りました。

(先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)

7 JAこばやし促成きゅうり巡回を実施

18日に、JAこばやしきゅうり部会の促成きゅうりほ場の巡回を実施しました。

巡回には、JA営農指導員、種苗メーカー、天敵メーカーが参加し、作終盤と来作に向けた指導を行いました。今作は3月以降に天気が悪く、例年よりも作終盤の栽培管理が難しい年となりました。

また、これまで発生が少なかった害虫の発生が多くのは場で見られ、生産者の方々は大変苦勞された作でした。7月には作反省会が開催され、今作の振り返りを行います。



【作終盤まで綺麗に管理されたほ場】

(気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)

8 新品種「ひなた舞」の展示ほ設置

6月上旬より管内全域で、普通期水稻新品種「ひなた舞」の田植えが始まりました。「ひなた舞」は収量性が高く、高温時に品質が低下しにくいいため、生産者の期待を集めています。

普及センターでは安定生産に向け小林市及びえびの市、高原町の3箇所の展示ほを設置し、20日に高原町の展示ほで行われた田植えにはマスコミ2社も取材に訪れるなど注目が高まっています。



【マスコミの取材を受ける生産者】

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 就農相談会を開催

9日、小林市で水稻経営での就農希望の方1名、18日、えびの市で稲作・露地野菜の複合経営での就農希望の方1名、10日及び17日高原町で肉用牛繁殖経営及び果樹での就農希望の方それぞれ1名に対して就農相談会を開催しました。

就農までのスケジュールの作成、就農に必要な施設・機械の整理などの相談対応を行いました。今後も引き続き、青年等就農計画認定を見据えながら就農計画の策定を支援していく予定です。

※就農相談対応 4名4回

(内訳 小林市：水稻1名 えびの市：稲作・露地野菜1名 高原町：肉用牛繁殖1名、果樹1名)

2 地域農業経営体支援センター担当者会を開催

24日、こばやし地域及びえびの地域の農業経営体支援センターと普及センターとの担当者会を開催し、今年度の事業計画等について打ち合わせを行いました。

特に、農業経営体支援センターが実施する「パートナー経営体支援」と、普及センターが実施する「経営体育成支援活動」について、各支援対象に対する支援がJAと普及センターの共通認識のもとで適切に行われるよう、情報共有を図りました。

今後も定期的な担当者会を通じて、事業計画の進捗管理と連携強化に努めてまいります。

3 西諸県地区果樹技術員会第2回定例会

18日に、JAみやざきこばやし三ヶ野山出張所及び生産者ほ場にて、標記定例会を開催し、関係機関16名が参加しました。

会議では管内状況の共有や病虫害対策等についての意見交換及びマンゴー食味調査を実施しました。会議後に生産者ほ場へ移動し、根量調査を実施しました。この調査は、令和8年産の後期出荷型ハウスで花芽の発生状況が不調であったため、原因解明のために実施したものです。今回は花芽の発生状況が不調であった園地を調査し、土壌pH/ECの測定、根の重量測定を行いました。

7月には花芽発生が好調だった園地での調査を予定しているので、引き続き、原因解明に向けた調査を実施していきます。



【根量調査】

4 水稻奨励品種決定現地試験の田植え実施

12日にえびの市で、水稻奨励品種決定現地試験「南海194号」の田植えを行いました。

「南海194号」は、強い高温耐性を持ち、ヒノヒカリ並に優れる食味を持つ品種です。

今後生育状況や収量の調査を行い、現地適応性の確認をしていきます。



【「南海194号」の田植え作業】